

令和6年度 聴覚支援のあゆみ（活動報告）

飛騨特別支援学校 地域支援センター（聴覚支援）

岐阜県では、令和元年度より飛騨圏域において聴覚障がい児童生徒の支援充実事業が始まりました。飛騨圏域の聴覚障がい児支援の拠点校として、飛騨特別支援学校が関連機関と連携を図りながら、聴覚障がいのある幼児児童生徒とその保護者、支援者の方々からの相談をお受けしたり、聴覚障がいとその支援についての理解・啓発のための学習会を行ったりしています。

ひだ難聴乳幼児教室

◇みみっこ教室（月 1 回 9:30～11:00 異年齢小集団活動）

0～5 歳児親子が集まり、体操や手遊び、絵本の読み聞かせ、季節の活動等を行いました。

絵や手話、表情、具体物などを用いてやり取りすることで、「見て分かる」こと、また、先生やお父さんお母さんと、そして子供同士で「伝わり合う」ことを大切にしながら活動しました。

今年度から、活動の最後に、親子で『えにっき』を描き、親子で話をする時間を設けました。それにより、「子どもの心が動く瞬間を捉え、それを絵に描くことで、やったことや気持ちをことばにして残していく」ことに取り組みました。



	主な活動	参加親子
5月	「こいのぼり」制作活動	2組
6月	「絵本:もりのおふろ」再現遊び	6組
7月	「絵本:もりのおふとん」再現遊び	5組
9月	大阪府 NPO こめっこ「出張こめっこ」	4組
10月	「絵本:おべんとう」制作活動	2組
11月	「秋見つけ」体験活動	5組
12月	「クリスマス」制作活動	5組
1月	「雪遊び」体験活動	4組
3月	「むっくりくまさん」ルールのある遊び	5組

ひだ難聴乳幼児教室 申込者数

0歳児:3名
1歳児:1名
2歳児:2名
3歳児:1名
4歳児:1名
5歳児:1名



◇保護者学習会（年2回）

日 時	内 容	参加人数
10月7日（月） 9:30～11:00	「きこえにくい子が『見て分かる』ことの大切さ」	3人
2月10日（月） 9:30～11:00	「先輩保護者と語ろう会」	8人

2月「先輩保護者と語ろう会」では、みみっこ教室を修了した小学生のお子さんがある保護者にお越しいただき、お子さんとやり取りする上で、日頃から大切にしていることや、家庭で取り組んでいることについての意見交流を行いました。

先輩保護者の方には、小さい頃に親子でやり取りしているビデオを紹介していただいたり、絵日記やカレンダー、歌詞カードなど、親子で作成したものの紹介していただいたりもしました。また、参加された保護者の方々からも、「今、家庭で取り入れていること」を話していただきました。このように、飛騨圏域での0歳児から小学生をお持ちの保護者同士がつながりもでき、「相談できる場が増えた」「相談すればよいことが分かった」との声も聞かれました。



訪問支援

	幼稚園・保育園・療育機関	小学校	中学校	高等学校	合計回数
実施回数	16	6	2	0	24回

◇授業（活動）参観・担任等との懇談

みみこ教室に参加している乳幼児の在籍園や通っている療育機関に出向き、活動参観と懇談を行いました。また、飛驒圏域の難聴児在籍校にも出向き、授業参観と懇談を行いました。懇談では、支援についての助言や参考書籍の紹介、情報提供をしました。

◇理解啓発授業

難聴児の在籍校で、同学年の児童に向けて『どうすると、みんながききやすいか考えてみよう』のタイトルで、きこえの授業を実施しました。実際に補聴器を付けて、いろいろな状況下で音や声を聞くことで、子どもたち自身が「どうすると、みんながききやすくなるのか」の意見を出し合いました。

◇職員研修

難聴児の在籍校で、全校の先生方に向けて『きこえにくさの理解とその支援』のタイトルで研修会を実施しました。イヤマフを付けての難聴体験や補聴器体験を通して、ききとり易い環境を整えることの必要性に気づき、その上で、支援のポイントを知るという内容で行いました。



理解啓発授業のまとめ

聴覚障がい学習会（保護者・指導者対象）

日 時	内 容	講師	会場	参加者
8月5日（月） 13:00～16:00	「乳幼児期に大切にしたいこと」	愛知教育大学 大塚とよみ先生	飛驒特別支援学校	22人
8月21日（水） 13:30～16:30	「通常学級、難聴学級、通級指導教室での難聴児の支援・指導について」	相模女子大学 松森久美子先生	Web	16人
10月17日（木） 14:35～15:35	「岐阜聾学校の紹介～聾学校をのぞいてみよう～」	岐阜聾学校教員	飛驒総合庁舎	8人

難聴児の家族や支援に関わる方、学校の先生対象の学習会を実施しました。

大塚とよみ先生のお話では、聾学校でのご経験から、「乳幼児期にやっておくことで就学後につながる力となるものがある、小さい時からの積み重ねが将来につながる」ということを具体的にお話いただきました。

松森久美子先生には、難聴児を担当する先生方に「難聴児自身に自分の聞こえを正しく認識させることの大切さとその方法」についてお話いただきました。

また、今年度は、岐阜聾学校のことを飛驒圏域の難聴児担当の先生や保護者の方に知っていただく機会を設けました。進路を考える上での選択肢の一つとなるよう、授業の様子や寄宿舎の様子など、映像を使用し、分かり易くお話していただきました。

来年度も、飛驒圏域で難聴児とご家族の方がつながることができ、また、新たな情報を共有できる場を設けていきたいと考えています。そして、難聴児が在籍する園や療育機関、学校の方々とは、「きこえにくさを知り、そのためにできる支援や配慮について」を、共に考えていきたいと思っています。

